

令和6年度 赤穂東中学校区小中連携教育 活動記録

1 令和6年度 小中連携教育研究部会具体的実践

『本年度の研究テーマ』

- 小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。
- 算数と数学の内容の系統性を把握し、指導の継続性を求めて、指導の改善を図ることにより、小・中学校9年間を見通した指導の相互理解につとめる。

2 赤穂西中学校区の活動報告

(1) 赤穂東中地区研究内容

小・中学校9年間で、基礎的な四則計算を継続して行う。

(2) 取組

- ・学習タイムを活用して、2桁の四則計算の確実性を高める。(小学校)
- ・単元終了時や学期末に復習を行い、各学年で習得すべき四則計算を着実に習得させる。(小学校)
- ・授業や宿題等で、5分程度でできる計算問題を繰り返し行い、計算技能の向上を図る。(小・中学校)
- ・授業を参観し、四則計算の達成状況を確認する。(小・中学校)

(3) 尾崎小学校

○実施日：令和6年9月17日(火)

○単元：6年生算数科「円の面積」

○事後協議

- ・小数の四則計算でつまずきがみられた。
- ・位をそろえるなど筆算の書き方に課題が見られた。
- ・引き算の繰り下がりが2桁続くと、不正解率が高くなった。
- ・ワークシートには計算スペースを設けたり、計算用のワークシートを配布したりするなどの工夫を行う。
- ・小数の計算以前に、簡単な整数の2桁の四則計算を繰り返し行うことで、計算問題に抵抗感を感じている児童に自信をもたせていく必要がある。
- ・中学校でも授業を行う際に、小学校の四則計算の復習を行ってから、単元に入ることで、学習を円滑に進められることが分かった。



3 まとめ

小・中学校相互で授業を参観することで、児童のつまずきに気付くことができた。進学先の中学校の先生方に小学生の計算能力を見てもらい、中学生の学習状況を伝えてもらうことで、お互いの指導方法を改善していく方向性を確認することができた。今後も情報共有を図り、児童理解、教材研究などの面で協力して、小中連携を深めていきたい。